

♪ マンドリンを奏でるアンサンブル “ラルゴ” ♪

マンドリンという楽器をご存知ですか？とくれば明治大学マンドリン倶楽部を思い浮かべる方も多いかもしれませんね。倶楽部創設者の一人、古賀政男氏が作曲した「丘を越えて」、「影を慕いて」など数々の古賀メロディーのヒットはマンドリンの普及に大きな貢献を果たしました。

写真①②は私が所有するマンドリンですが、長さは65cmほどと小型で丸っこくて持ち運びにも手軽な楽器です。弦は同じ太さの金属弦2本ずつで4組(4コースといいます)張ってあります。この2本ずつの複弦を同時にピック(べっ甲製やプラスチック製の爪)ではじいたり、連続ではじくとレモロといった弾き方が一般的です。調律はバイオリン(弦4本)と同じですのでドレミの押さえ方も同じになります。大きく違うのは指板にフレットが刻んであるかないかです。マンドリンはフレットがありますので比較的簡単に曲が弾けるようになります。

マンドリンの発祥国はイタリアです。特にミラノやナポリなどの都市で発展しました。ナポリ民謡の代表曲「サンタルチア」など陽気な音色を奏でるマンドリンが活躍しています。

※写真①②はイタリア製マンドリン「カラーチェ クラシコA」



①

1



②

2

今回は年配の方々が気軽にマンドリン合奏を楽しんでおられるアンサンブルグループ「ラルゴ」取材させていただきました。

「ラルゴ」のメンバーの皆さんはいずれも60歳以上で、若い頃からの経験者やまったくの初心者で最近習い始めた方など10名が集まりました。もともとは朝日テレビカルチャーのマンドリン講座入門クラスの生徒さん達を中心となり、そこにギターやコントラバス(ベース)の経験者が加わり「ラルゴ」が誕生しました。

※ラルゴ Largo 音楽用語(速度標語)で「幅広くゆるやかに」の意味。年配者のグループ名にふさわしいとマンドリン講座の女性講師が名付けてくれました。

練習は月2回集まる朝日テレビカルチャー入門クラスのレッスン終了後、午後からJR静岡駅前の音楽館AO17階リハーサル室にて行います。まずは椅子や譜面台を並べることから始まります。(写真③④)



③

3



④

3

練習開始前に必ず行うのが調弦(弦の音合わせ、チューニングともいう)。40年ほど前は音叉(う音、440Hz)を鳴らしてはマンドリンに触れさせて弦を共鳴させるやり方でしたが、今では手軽なチューニング機器が数多くあり、簡単に調弦できるようになりました。(写真⑤)

全員の調弦が終わればよいよ合奏練習です。(写真⑥)



⑤

[5](#)



⑥

[6](#)

先月、AOI7階の講堂で教室発表会が行われ、その時に入門クラスが演奏した曲は「浜千鳥」、「太陽がいっぱい」、「ムーンリバー」の3曲でした。今回は発表会後の練習ですので新しい曲に挑戦です。皆さん真剣そのもの！(写真⑦)

「ラルゴ」の庶務を担当する宮本さん(写真⑧左)は学生時代にマンドリン経験がありますが、それ以来？十年ぶりに弾き始めたとのこと。同じく庶務担当の新井さん(写真⑧右)は初心者ですが、ご自身の還暦記念としてマンドリンに挑戦したとのこと。



⑦

[7](#)



⑧

[8](#)

「ふるさと」を練習中の中島さん(写真⑨)は兄がマンドリンを弾いていたことがきっかけで1年ほど前に参加しました。

櫻井さん(写真⑩)は富士市文化会館ロゼシアターで聴いた明治大学マンドリン倶楽部の演奏に魅せられ参加を決めました。自宅が富士市なので通うのも大変ですが、カルチャーのレッスンも「ラルゴ」の練習もとても楽しみで、毎日マンドリンに触れることに幸せを感じるとのこと。



⑨

[9](#)



⑩

[10](#)

永田さん(写真⑩、73歳)は「ラルゴ」の代表者としてメンバーのまとめ役を担っています。「ラルゴ」は発足して3年ほどですが、メンバーの入れ替えが度々あったようです。カルチャーでは入門クラスで上達した生徒さんは上のレベルのアンサンブルクラスへ昇格となりますので、新しい入門者の参加を期待されています。

コントラバス(ベース)の望月さん(写真⑫、73歳)は二十歳代から弾いている経験者で、「ラルゴ」を低音部から支えています。



⑪

[11](#)



⑫

[12](#)

ギター of 森さん(写真⑬、76歳)はギター歴10年のベテランで「ラルゴ」には2年ほど前から参加されています。

同じくギターの太田良(たたら)さん(写真⑭、84歳)は「ラルゴ」の最年長者で、学生時代からマンドリン合奏を経験されている大ベテランです。「影を慕いて」の冒頭部のギターソロを上手に弾かれています。このギターのお二人が「ラルゴ」のリズム、テンポの要となっています。



⑬

[13](#)



⑭

[14](#)

新たに練習を始める曲についてギターのお二人と楽譜確認をする永田さん。(写真⑮)

「ラルゴ」のメンバーはマンドリン7名、ギター2名、コントラバス1名の10名です。この日は8名が練習に

参加されました。(写真⑬)

今回の発表会に向け新たな曲に挑戦する「ラルゴ」の皆さん。今後益々のご健勝、ご活躍を期待しています。



⑬

[15](#)



⑭

[16](#)

楽器演奏は指先を使うこと、楽譜を読んだり感情を込めたりして頭を使うこと、合奏することによる人との交流など高齢者のみならず健康維持のためにもとても有益かと思われまふ。とりわけマンドリンは日本人の感性に合い、しかも手軽に楽しめる楽器の一つとしてもっと注目されてもよい分野ではないかと思ひます。

そういえば8月28日放送のテレビ番組「徹子の部屋」で名子役として人気の芦田愛菜さんが「天才子役が中学生に 部活に夢中！マンドリンを披露」と題して出演され、始めたばかりのマンドリン演奏を披露したのがとても話題となりました！あまり知られてはおりませんが、実はマンドリンは日本全国の中学、高校はじめ大学や社会人団体など幅広い年代層で人気があるんですよ！



さてこの場をお借りして、特派員の私が所属するマンドリン演奏団体の演奏会をご紹介します。

1. 静岡マンドリン愛好会 第43回定期演奏会(写真⑰)

日時: 11月4日(土) 18:30開演 会場: 静岡音楽館AOI8階ホール 入場料: 1,000円

※演奏会の最後に古賀メロディーを聴けるかもしれませんよ。

2. 第15回静岡県マンドリンフェスティバル(写真⑱)

日時: 平成30年5月13日(日) 13:30開演 会場: グランシップ中ホール 入場料: 500円

※静岡県内で活動するマンドリン社会人団体6組が参加し、各団趣向の演奏が繰り広げられます。ポルトガルギターとマンドリンのデュオ「マリオネット」がゲスト出演します。



⑰

[17](#)



⑱

[18](#)

取材：静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章